

議長(山口 一成君) 日程第1「一般質問」を行います。

順番に発言を許します。

15番、門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君) 本定例会に、大きく分けて3点の質問をさせていただきます。

最初に、長深の集落の東に操業しております株式会社ナルックス員弁工場付近へ公共下水道を、という題目で進めさせていただきます。

終戦後の苦しい食料不足、そして腹いっぱい米の飯が食べたい、腹いっぱい銀しゃりを食べたいという、それらを受けて、昭和36年に国は農業基本法を、そして生産性向上に向けて、水田の基盤整備事業が始まりました。農業の機械化も、その農業基本法に合わせて進み、そして農村の労働力を頼りに企業進出があちこちであり、まさに兼業農家の始まりとなりました。

そして昭和37年に、長深の集落の東に株式会社ナルックス員弁工場、時を同じくして中上の高台に東洋ゴム工業株式会社桑名工場が企業立地をしました。そして、昭和39年から、ナルックス員弁工場は本格的な生産を開始し、高度成長に合わせて工場はフル操業、フル生産時代を迎えました。雇用の面も地元採用を中心に、多い時には250人を超える農家の方々も働かれました。まさに農村地帯の大変な様変わりをした昭和40年時代でございます。

そして、企業の労働力確保に、5階建ての45戸の社宅も建てました。

そして、時を同じくして公共事業、民間の設備投資に支えられて、売上高も上昇してまいりました。昭和40年代から長い間、ナルックスは町内企業の中で法人税等の、いわゆる高額納税のトップの座を占め続けてまいりました。

しかし、オイルショックを受けて、現在は年間法人税、均等割、175万円、固定資産税、1,900万円と落ち込みましたが、それでも年間2,000万円を超える税を東員町へ納めております。なお、この税金の今申しました額は、町の税務課では、情報公開といえども公開ができないということでしたので、ナルックス本社で調査したもので、正しい数字であることを申し上げます。

なお、平成19年10月からは、このナルックスの員弁工場でパイル生産への設備投資があり、効率化、集約化、そして体質強化に向けて、生き残りをかけて懸命な企業努力がなされており、地元としては本当にありがたいことだと思っております。

まさに、春の来ない冬はありません。冬は必ず春になるという期待感があります。健康で文化的な最低限度の生活を営む権利は憲法で保証されております。絵にかいたもちにならないよう、そして、町長の口から出る、行政として最大限協力支援するとの歓迎の言葉とは若干裏腹に、公共下水道をいつまでもほったらかし、後手後手では、すべての人が平等で公平・公正、この行政サービスの原則からも、あるいは住民感情からもいかなものかと思えます。早急に取り組んでいただくようお願いして、町長の答弁を求めます。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) おはようございます。

門脇議員の、ナルックス員弁工場の公共下水道整備に関するご質問にお答えをいたします。

議員もご存じのとおり、下水道計画につきましては、生活環境の改善や河川海域の汚染防止を目的に、県が「四日市・鈴鹿水域流域別下水道整備総合計画」を策定し、その中で本町を含む市町が「北勢沿岸流域下水道(北部処理区)」に接続する「流域関連公共下水道」として位置づけられ、昭和63年度に「北勢沿岸流域下水道(北部処理区)」区域内の「流域関連東員町公共下水道」として全体計画を立案し、その後、計画面積等の見直しを行い、現在に至っております。

本町の計画区域は、市街化区域及び市街化調整区域の集落地区を中心に、連坦する周辺地区を含めた区域として策定を行っており、ご質問の地域は、現在、計画区域には含まれておりません。

計画区域も同年(昭和63年)に策定し、これまでに住宅の建設に伴い、必要に応じて見直しを行ってまいりましたが、経年変化とともに、土地利用や住宅地も変わってきております。

今後も、ご質問の地域を含め、町の計画区域について、必要に応じた見直しを図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 15番、門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君) 今、町長の方から、計画区域に入れていかないということですが、実は私は平成14年の3月定例会の一般質問で、故伊藤仁實町長に、東洋ゴム株式会社桑名工場の水は、四日市水道局から買ってある、その問題を提起させていただきました。そして平成13年の11月と12月の2カ月間を見ても、東洋ゴムで使用される水の量は約1万トンで、使用料金として260万円を四日市水道局に売ってある。こんなアンバランスは1日も早く解消すべきではないか。東員町から現在、四日市水道局は水を持っていっております。それをまた、その水を平成14年まで、四日市水道局から東洋ゴム桑名工場は買ってある。1日も早く東員町から水を送るようにと訴えました。そしたら伊藤町長は、直ちに測量作業に入りますということで進めていただきましたが、東洋ゴム桑名工場は、中上のお寺さんから見ると高低差が約20メートルある。そこで、安定供給には、どうしても中上から上がっていく、あの坂の途中に加圧ポンプを設置しなければならないと。それらの工事も含めて急ピッチで飲料水を送る工事がなされ、1年後の平成15年から上水道を東洋ゴム桑名工場へ供給をしてもらいました。

それに合わせて公共下水道工事も同時に進められて、公共下水道は、平成17年に供用開始しております。そして、現在は使用料金として年間約2,400万円、まさに大口利用者で、本町の上下水道の大きな財源となっております。

先ほども申しましたように、本町南部の三和地域には、時を同じくしてナルックス、東洋ゴムの2大企業が立地できました。しかし、当時は今のように企業進出に対して税金を免除しますというような手厚い優遇措置はありませんでした。すべて進出企業の努力、あるいは企業の自前で今日の姿ができたといっても過言ではありません。

それが様変わりいたしまして、現在はどこの自治体も、あるいは行政も、企業誘致、企業が来てくれることには諸手を挙げての大歓迎であります。三重県知事や、あるいは市町のトップの首長さん連中は、企業誘致をします、雇用を確保しますというのは、もう選挙公約になっておると言っても過言ではありません。そして地元採用、地元雇用をお願いしてあるような時代です。

早くから企業立地をしてくれた企業にも、ありがたい気持ちを持っていただき、長い間、税金の滞納もなく、今日までの業績の評価もしていただきたい。今、言われました町長の区域内に入れたいという、議論の集大成を生かし、早急なナルックス員弁工場付近の公共下水道への取り組みをお願いし、大所高所から町長の判断を求め、答弁を求めたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君)      お答えをさせていただきます。

まず、先ほどのご答弁をさせていただきましたように、この地域を含めまして、全体計画を一度見直しをさせていただきたいと思います。

当然、下水道でございますので、基本的には環境を守ると申しますか、きちっとした環境上からということも大切な要素でございますので、その辺も十分認識をさせたいままて、一度、東員町全体の計画を見直しをさせていただいて、皆さんと協議をさせていただきたいと思います。

先ほどご答弁させていただきましたように、63年度に東員町全体の計画、調整区域も含めた計画を立てたわけでございます。その時に、どこを計画から外すかということは当然問題になったと思います。ご承知のように、ナルックス、それから東洋ゴム、それからもっとほかにあるわけなんですね。大きな企業と申しますと、桑名国際ゴルフ場、それから東員病院、さつき病院、そして住宅で申しますと、弁天川の東の東員町の地域の住宅の部分とか、大長駅の西の住宅が建っている地域とかというところは、当然その時に議論がされたのです。そして、やはりその時の費用対効果とか、いろいろな面で入ってないわけなんですね。そこへ管を引っ張っていくとすると大変なお金がかかるということ等で外れておるわけなんです。

現在、いろいろな社会情勢も変わってきておりますし、環境も守らないとあかんということで、私は公平・公正から見た時に、全体を一遍見直す、そして入れるべきところは入れさせてもらう。そして費用対効果もやはり見ていかないと、非常に距離のあるところをずっと引っ張っていくというのは、お金もたくさんかかりますので、その辺も皆さんと一遍議論をさせていただいて、当然入れるべきところは入れさせてもらいたい。当然これは東員町だけでいくことではございません。終末処理場がかかわってまいりますので、北部処理区との絡みもございますので、まず計画を上げて許可をもらう。そうしないと入りませんので、そんなことを、きちっと一度見直しをさせてもらいたということでご答弁をさせていただきましたので、ひとつご理解をいただきたいと思います。

議長(山口 一成君)      門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君)      今回、国は補正予算を成立させて、地方の公共事業、公共投資への増大を考えております。当然東員町にも、この会期中に、その姿が示されると思うのですが、国も何とか地域を活性化しようとしております。公共事業もふやしていこうとしております。生活に直結した公共下水道です。町長の言われました、東員町全体の計画も見直していくという答弁ですが、若干前向きになってきておるのですが、その見直し時期

はいつごろ、そういうたたき台を机の上に上げてやられるのか、もう一度お答えいただきたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

ナルックスもそうなんですけど、会社の方からきちっとした文書等で、この下水道に接続ということは、行政の方に意思表示はないわけなんですね。当然これをつなげば、あと、使用料も払ってもらわなければならないということですね。だから当然企業としては、社宅があれば個人も絡むかもわかりませんが、使用料も発生してくるわけなんですね。だからその辺も企業さん、うちがつないで、迎えにいったらいいんですか、その辺もやはり確認をしないと、無料であればそらいいんですけど、あと、水の使用料を払ってもらわなければならないということですので、やはりその辺は企業と東員町で、きちっと迎えにいけますけども、接続をしていただけますわねと、区域に入ってくださいわねと、この辺もきちっとしていかないといけないということと、やはり費用対効果も現実ありますので、仮に今すぐ東員病院あたり、うちが迎えに行くというのは非常にお金もかかるわけですね。

ナルックスの場合、今、どちらへつなぐか、西へ向いてつなぐのか、東の中上の俗にいう三軒屋と言ってますけど、あちらの方を向いてつなぐのか、いろいろな手法があると思います。それによってお金も変わってきますね。上へつなげばポンプも要るとか、いろいろありますので、うちとしても投資の費用もありますし、どうしていくか、養父川を渡すのか、その辺いろいろありますので、きちっと我々としては企業とも話をしながら、お金も幾らぐらいかかるか、そして何年でそれがペイできるというんですか、使用料とした場合、ナルックスの場合、大体ざっとですけど700万円から1,000万円ぐらいかかるだろうと。それを使用料金としてもらうと、大体10年ぐらいかかるのと違うとか、いろいろありますので、その辺は十分我々も検討させていただいて取り組みたい。

それから、今から計画区域に編入をしていただく法手続をしていきますと、いくら早くても平成25年度以降になるということだけ、ひとつご理解をいただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

議長(山口 一成君) 門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君) 養父川は当然渡っていただくかならんわけですが、そのナルックス工場の東側にある中上の三軒屋も養父川を横断して中上からいっておりますし、幹線は長深の方からいきますと、松下商店までは公共下水道は本管が来ております。ベター、最善の方法でひとつ早急な計画をつくっていただくことをお願いしておきます。

それでは2番目の問題に入ります。国・県の直轄事業の地元負担金等についての質問に入らせていただきます。

主要地方道、桑名大安線と国道365号線が交差する中央大橋、それに念仏橋付近は朝夕の通勤時間帯は想像以上の大混雑を期しております。以前から、この交通渋滞を早くから訴えてまいり、交通信号機は設置されましたが、抜本的な渋滞解消にはなっておりません。それらを含めて、まず念仏小橋の仮橋、そして取付道路等の交差点改良工事が急ピッチで現在進められております。国県の事業であります、5カ年計画で総事業費35億円とも伺っております。そのうち地元東員町の負担金は幾らになるのか、そして年度別工事内容、あるいは年度別の消化予算と図面完成予想図とを住民に説明責任が果たせる仕様を示していただきたいと思っております。

2番目に主要地方道菰野東員線と南部農免道路の交差点、通称、赤坂と呼んでおりますが、この付近は継続して部分的な工事が毎年行われております。現在の道の反対側、赤坂の現在の道路の反対側には2メートル近い土盛りもあります。完成予定図面、そして当然、この菰野東員線がまっすぐに現在のまま進んでいきますと、南大社市街地に入ります。この南大社の町の中は人口密集地帯でございます。その地帯はどのような計画になっていくのか、工事予定、そして予算、それに東員町の地元負担金を示していただきたいと思っております。

3番目に、一般国道421号線の交通安全対策としての歩道は、桑名市側から始まり、北山田工業団地、あるいはカネスエまでの一部は完成を見ておりますが、ネオポリスの東の入り口から西の多度東員線の交差点まで、平成20年度からは用地買収をするということ聞いておりますが、それらの進捗状況、工事内容についての説明を、いずれも町長に3点について求めたいと思っております。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) ご質問の、国・県の直轄事業の地元負担金等について、お答えをいたします。

まず、1点目の中上地内における県道四日市東員線、桑名大安線との交差点周辺の事業計画につきましては、本年3月定例会で、鷲田議員のご質問にご答弁させていただいております内容と重複いたしますが、お許しいただきたいと存じます。

県道四日市東員線では主に2件の工事を行い、一つは、念仏大橋の南詰めにいなべ市方向への右折レーンを設けるため、下流方向への拡幅及び念仏小橋に右折レーンを設置するため、新しい橋に架けかえる工事が行われます。

県道桑名大安線につきましては、いなべ市方面から念仏大橋南詰めを直線的に桑名市方面へ通過できるように、養父川が員弁川へ合流する付近に、新たな橋を架ける工事が計画されております。

これらの事業につきましては、平成17年度から着手し、事業費の総額は概算で13億円と聞いております。先ほど35億円というご質問がございましたけど、13億円と聞いております。厳しい財政状況の中、今後の年度別事業費については不確定要素が多いとのことでございます。

なお、この事業に伴う地元負担金は発生しないものと、県桑名建設事務所より説明を受けております。

次に、2点目の南大社・長深地内の主要地方道、菰野東員線の工事でございますが、平成19年度から事業に着手しており、南大社地内の笹谷川より四日市方面に約120メートル区間の工事が完成したところでございます。

今年度は、平成19年度完成地点から四日市市との行政境界まで、約400メートル区間において工事が計画をされております。

また、員弁川右岸の国道365号線バイパス交差点から笹谷川までの未整備区間については、引き続き道路拡幅事業の要望を行ってまいります。

なお、山神川から養父川までの南大社地区の集落内におきましては、民家等が密集しており、早急な拡幅は困難ですが、通勤・通学時間帯を中心に、自動車や歩行者の通行が危険な状態であることから、地元自治会及び地権者の協力を得ながら、待避所的なスペースを確保するため、今年度、県により自動車等の待避所を設置し、通行の安全確保を図る事業が進められる予定でございます。

3点目の鳥取地内の国道421号の歩道整備でございますが、昨年度、笹尾東進入路からいなべ市方面へ、県道多度東員線との交差点付近まで測量設計業務に着手し、既に本年5月から同区間の境界立会いが進められております。

今後は、笹尾東進入路交差点からいなべ整形外科まで、北側の歩道整備と笹尾東進入路交差点から笹尾西進入路交差点まで、南側の歩道整備を第1期工事区間として、平成24年度を目途に、用地買収及び工事を実施していく計画と伺っております。

各事業の地元負担金については、「県と市町とで協議されている土木関係建設事業等に伴う市町負担金」により、現段階では、2点目で説明しました南大社集落内道路整備が

県単道路改築事業として実施される予定ですので、これに係る事業費の10分の1の負担となります。

これらの事業は、いずれも工事が完成するまでに長期間を要するもので、地元の皆さんや、国道、県道を利用される方々には、ご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご協力いただきますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君) 随分大型な工事でございますので、毎年一遍に成果は出ないと思うのですが、この桑名大安線も、もうつくっていただいた当時から比べると、随分車の量もふえておりますし、念仏橋付近の渋滞は、とても我慢できない状態でございます。1日も早い完成を、県当局、あるいは国当局に要請活動をさらに続けていただきたいと思えます。

そして、私たちは昨年、平成20年8月13日に、東員町議会と木曾岬町議会の合同研修会を東員町で開き、講師に三重県の桑名建設事務所の山田道路課長に来ていただきました。山田さんは県の東京事務所に長らく勤められ、国土交通省との折衝に県民の声をぶつけてくれた方ですし、北勢地方の東海環状線、あるいは第二名神との2大事業を抱えて現場で汗を流していただいた方のお話で、随分、私たちも参考になり、勉強させていただきました。

さらに平成21年、今年の1月20日、21日の2日間にわたり、議会の有志議員8名で上京し、国土交通省、農林水産省、文部科学省、それぞれ訪ねて、国の直轄事業での補助金、あるいは負担金、行政の中で情報開示などについて随分勉強させていただき、地元の東海環状線の問題についても必要な道路であります。どうかひとつ早急に整備促進をと、声を大きくして訴えてまいりました。

そんな中で、私たちの想像する以上に、東京の霞が関における高級官僚、霞が関における若い官僚は、快く対応してくれて、今日までの経過もるる申し上げ、あるいは国からもこういう制度もあります、これらのこともどうですかということも聞きました。それを受けて、3月定例会には同僚議員が町長に質問した経緯もございます。

どうかひとつ、今申しましたように、直轄事業の負担金も、以前は東員多度線の沢のところの信号の測量設計の一部を東員町に持ってくださいという予算提示があった経過があります。そんな測量設計ぐらいでも地元負担金を、と言ってくる時代です。今回、念仏小



橋の辺は全部国県事業、地元負担金なしということで、今お伺いいたしました。非常にありがたいことだと思います。どうかひとつ、それらの問題にも、早い段階で、住民の皆さんに、私たちが説明できる説明をしていただくようお願いして、もう一度、町長のご答弁をいただきたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

公共事業と申しますか、道路とか農林の関係、私どもとしても、絶えず県等には要望をさせていただいております。過日も東員多度線というんですか、この道路につきましても、この3つ以外に、早急に拡幅工事をきちっとしていただきたいということも要望もさせていただきましたし、421号線につきましても、員弁町の境まで、421号線のトンネルが抜けた時点では、多分、交通量ももっともつふえるということで、大変危険な道路であるということで要望もさせていただきました。

なかなか県も、東員町の場合、3カ所大きな工事をさせていただくのでということで、大変厳しい財政の中で、ということで報告をいただきましたけども、私どもとしても早急に懸案の道路、要望を重ねていきますので、どうぞご支援をよろしくお願いを申し上げます。

そういうことでお願いをいたします。

議長(山口 一成君) 門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君) 幸い、国は地方の活性化のために補正予算も組みました。どうかひとつ、それらも大いに活用していただき、事業促進に向けた、さらなる努力もお願いしておきたいと思います。

それでは、大きく分けた3点目の問題に移らせていただきます。

中学生、海外派遣事業の再検討をという題目でございます。

実は、この事業は平成13年度から始まり、本年で9回目を迎えますが、もう既に9月30日から10月7日の8日間で16名の生徒参加募集が募られ、そして29日から6月15日までに希望者募集が始まるということで、連日、プラムチャンネルで流されております。そして、この番組の影響を受けてか知りませんが、多くの生徒は密かにドイツへ気持ちは行っておるかもしれません。

しかしながら、悪いことに今年は新型インフルエンザ、これが6月1日に東海地方の愛知県で初めて確認がされております。そしてきのう、4日現在で、感染者は401人となっております。過剰反応はぜひとも避けたいのですが、もし行かれる場合、これからの各国の対応、情報も参考にさせていただき、健康第一に考えていただきたいと思います。

今朝の新聞を見ますと、厚生労働省はきのう、4日、この新型インフルエンザの発生は大型連休の5月5日であったと発表し、今朝の新聞で、それも知りました。なお、今回のインフルエンザは、私たちのような高齢者には少ない。免疫を持っておるためとも言われておりますが、若い学生を中心に感染者があるように思われます。しかし、症状も当初の心配をよそに比較的軽いのですが、油断は大敵とも言われておりますし、報道の一部マスコミに煽られないような、パニックにならなくても冷静に判断していただき、そして、お互いに今ここにきて断腸の思いであります。自粛も含めた再検討をお願いして、教育長の答弁を求めたいと思います。

議長(山口 一成君) 岡野譲治教育長。

教育長(岡野 譲治君) 門協議員の中学生海外派遣についてのご質問にお答えをいたします。

中学生海外派遣事業は、ご存知のとおり、平成13年度に第1回を実施して以来、昨年まで計8回、123名の中学生をドイツに派遣してまいりました。また、本年度につきましても、先月末から募集を始めたところであります。

さて、本年度の海外派遣につきまして、「新型インフルエンザ感染拡大を踏まえ、自粛を含め、再検討を」とのご指摘でありましたが、私どもも、新型インフルエンザの状況を考えますと、実施すべきか否か、正直申し上げて迷うところであります。

5月中旬に、「人から人への国内感染」が確認され、それ以降、特に関西方面を中心に感染が拡大する中、多くの学校等で臨時休業等の措置がとられております。また、国内外を問わずに修学旅行等を延期または自粛している状況であります。

そのような中、本年度の海外派遣をどうすべきかということにつきまして、5月の教育委員会定例会や海外派遣実行委員会等において協議してまいりました。さまざまな意見が出されましたが、9月末からの事業ということ踏まえ、新型インフルエンザの国内外の状況及びWHOや厚生労働省等の情報を注視しながら、海外派遣の本格的な準備を始めます8月までに再度協議した上で、一定の結論を出すことといたします。

いずれにいたしましても、状況によっては難しい判断になると思われませんが、「安心」「安全」を基本といたしまして、最終的な判断をしてみたいと考えておりますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 15番、門脇助雄君。

15番(門脇 助雄君) 新しい教育長の初登場で、こんな質問、まことに申しわけなかったのですが、どうぞひとつ教育委員会で賢明な判断をされて、今言われましたような安心・安全な旅立ちができるといいのですが、どうかひとつ、いろいろな情勢も判断され、あるいは余りマスコミに、私もそうですが、踊らされないような、賢明なご判断をお願いしておきます。

以上でございます。